

3.12 才53回 定期 地本委員会を成功させよう!

3.12

3月12日、10時 千葉市青雲閣

千葉地本は、三月一二日十時より千葉市・青雲閣において、第五三回定期地本委員会を開催することを決定し、三月三日付「千本指令第七号」をもって召集を發した。第五三回定期地本の議題は、①七八秋年闘争の中間総括と七九春闘の取り組みについて、②千葉地本に対する統制処分組織破壊攻撃粉碎を中心とする闘いについて、③労働協約・協定の締結について、④一九七九年度暫定予算についてである。

とりわけ本定地委は、第一〇二回定中委における、地本三役・全執行委員および地青三役と津田沼支部長に対する査問委への追加申請、「千葉地本は執行権停止に値する」「発効時期はオルグの状況などを見て中執に一任」なる「事実上の執行権停止」という理不尽な新たな千葉地本排除組織破壊攻撃に対する千葉地本一四〇〇名の意志統一の場としてある。動労を分裂させ、反動的セクト的組合私物化をもちこむ革マル及びそれに追いつく反動分子の傍若無人なふるまいに断を下し、今こそ、動労運動の階級的民主的統一と団結をかちとるべく奮闘し、第五三回定期地委の圧倒的成功をかちとろう。

動労革マル・反動分子どもの千葉破壊攻撃を断じて許すな

3月5日 本部・関東青年部

「三・五千葉破壊オルグ」は誰が仕組んだのか!

これまでのわれわれの闘いが正義であるがゆえに、革マルとそれに追いつく反動分子のなりふりかまわぬ攻撃はことごとく粉碎され、彼らはポロポロ・グズグズになってしまっている。「三・五千葉破壊オルグ」ははじめな破産をとげたといえこれ自体をわれわれは到底許すことができない。あの理不尽な「一〇二回定中委」の決定からさえもハミ出し、否定し、なおかつさすがの城石組織部長も知らなかった(?)というこの事実こそ、千葉地本排除組織攻撃であり本部・関東青年部を僭称する、革マルの動労私物化の実証ではないか。いつどこで誰がこのような許しがたい暴挙を決めたのか。本部・関東地評はこの事態を説明せよ。

△五項目解明要請→無視△

△討論→回避△

「伝達」に終始した城石組織部長

3月6日 本部組織

そして、城石組織部長が「初めて」千葉にやってきた三月六日の「話し合い」の場での本部の対応は、形式的に「話し合い」はしたという既成事実をつくることを目的にしたとしか思えないものである。城石組織部長、小谷中執が常にいう「論争」イデオロギー闘争すらも放棄して、開口一番「今日は論争するつもりはない」と言明し、「一〇二回定中委」の「一方的な伝達」と「本部」の組織指導のあり方に対してのわれわれの疑問に全くといってよいほど答えないうり方。これが「話し合った」といえるだろうか。ここにこそファシシヨ的組織指導組織排除の論理をわれわれは見る。

城石組織部長よ、五項目の解明要求と「一〇二回臨大の四つの闘う方針に真正面から答えてみよ」

3月8日 田岡 革マル新幹部を弾劾

革マル分子による職場攪乱を弾劾する!

卑劣な革マル・反動分子は、三月八日、館山支部に対して職場攪乱を行ってきた。勿論、館山支部執行委員の毅然たる対応によって粉碎したことはいうまでもない。

一三時一六分、鉄電で新鶴見支部「田岡副支部長」(この者は、二月段階にも千葉地本組合員宅に直接攪乱電話をしてきた)から電話があった。内容は、猫ナデ声で「自分は千葉市幕張で生まれた。釣りが好きなので、釣りにいきながら館山にオルグをしたい」という浅ハカな切り出して、「『日刊』に書いてあることと貴方の考えは同じか」等と言うのであった。電話に出た執行委員から、「オルグに来たいのなら、『五項目の解明要請』に答えよ。答えられないならば、君も本部に解明するよう申し入れる。『日刊』の主張は千葉地本全支部の意見だ。解明がないかぎりオルグには応じられない」と一喝されて、グウの音も出なくなり、しばらくなきことをならべたてた後恥ずかしそうに電話を切ってしまった。

われわれは、粉碎したとはいえ、新鶴見支部の副支部長という名を使って「革マル・反動分子」の本性をあらわにして千葉地本の「職場攪乱」をたくらんだことを怒りをこめて弾劾する。

全組合員の皆さん!

●さらに地本・支部防衛を強めよう。
●三月一二日、第五三回定期地委に結集せよ。